

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	41	—	事業名	生涯学習推進事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課
------	----	---	-----	----------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	2	住民の自主的な生涯学習活動を支える	款	9	教育費
		施策の進め方	1	自主的な学習の支援	項	4	社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	—		目	1	社会教育総務費
		政策分類	—		大事業	7	生涯学習推進事業
	その他(関係法令、要綱等)	社会教育法第5条6・10・13・15、第2次長久手市生涯学習基本構想、ながくて・学び・アイ講座運営要綱					
事業開始の背景、経緯等	公民館講座：昭和57年度以前～、ながくて・学び・アイ講座：平成20年度試行、平成21年開始 市民大学：平成26年度～、土曜英語学習事業：平成28年度～						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 長久手市公民館講座において、第2次長久手市生涯学習基本構想に基づき、「自主的な学習を支援する」「学習の内容を充実する」「学習機会を提供する」「学習の情報提供を充実する」「学習の場を充実する」を目標とする。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住、在勤、在学の方(ただし、講座によっては一定期日までに募集定員に満たなければ市外の方も可)					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 公民館において講座を開催することにより、学習の機会を提供し、講座の中で興味を持つジャンルを見つけることで、市民が集まり、交流するきっかけづくりを行う。					
	事業を構成する事務事業	① 生涯学習推進事業	改善・見直し	④			
		②		⑤			
		③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		599	1,252	1,926
実績					616	1,153	1,632	
人件費(B)	千円	決算		2,979	2,979	5,236		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		3,595	4,132	6,868		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 全講座の平均満足度	%	目標	実績	—	—	—	85
実績				—	—	—	81.3	
B 学び・アイ講座数に対する開講講座の割合	%	目標	実績	80	90	80	80	80
			実績	84.1	69.2	75.6	56.8	
C 新規サークル	団体	目標	実績	15	15	15	15	15
			実績	12	9	9	12	

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 前年度実績を上回るように目標設定する。

B 前年度実績を上回るように目標設定する。

C 新規サークル15団体の成立を目指す。

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・市内に点在する史跡を巡る講座や市内の大学と連携した講座など地域の資源を生かした講座を実施。 ・近隣の尾張旭市、瀬戸市、日進市、豊明市で講師募集型講座を実施。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・全講座の平均満足度は目標の85%に届かなかった。 ・学び・アイ講座の開講率は減少している。 ・新規サークルについては目標の15団体に届かなかった。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・受講生のアンケートでの意見や満足度を参考にして、今後の講座内容を検討する。 ・チラシの内容について分かりやすいものにする。 ・継続した生涯学習を推進するために、サークル活動の実践を講座の中で案内する。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・公共施設に設置するチラシの活用等広報の方法を検討する。 ・講座終了後も自主的にサークルを立ち上げ活動できるよう講座の中で学習サークルの設立案内等を行う。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 講座終了後の学習活動の継続を促し、自主的な学習を支援していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		生涯学習推進事業									
番号	①	事務事業名	生涯学習推進事業	款	9	項	4	目	1	大事業	7	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和57年度以前	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生～4年生：土曜日の英語学習を企画・実施 ・18歳以上：市内在住、在勤、在学の方を対象に各種講座を実施し、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ機会を提供する。特に、大学連携講座では、大学における専門的な知識を市民に伝えるとともに、研究成果を社会へ還元する。 ・60歳以上：退職後世代を生涯学習へ導くため市民大学を実施する。 <p>（すべて原則、市内在住・在勤・在学）</p>
意図	<p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <p>市民の生涯学習への関心を高め、交流する楽しさを知るきっかけとしていただき、生きがいつくりと居場所づくりを推進する。また、子どもたちに豊かな学習機会を提供する。</p>

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		599	1,252	1,926	1,689
		決算		616	1,153	1,632	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 公民館講座講師料						808	千円
② 土曜学習事業委託						481	千円
③ ながくて市民大学運営委託						322	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
講座参加者数	人	目標	630	740	500	560	590
		実績	736	498	552	587	
開講した学びアイ講座	講座	目標	—	35	28	35	15
		実績	37	27	31	25	

＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞

市内在住、在勤、在学の方（講座によっては一定期日までに募集定員に満たなければ市外の方も可）を対象に各種講座を実施し、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ機会を提供する。H29年度は史跡巡り講座、浴衣着付け講座、パソコン講座（5講座）、大学連携講座（2講座）を行った。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

自主的な生涯学習の推進のため、ながくて・学び・アイ講座で開講が可能であると思われるもの及び毎年行う必要がない講座は、公民館講座として開講しないこととする。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞

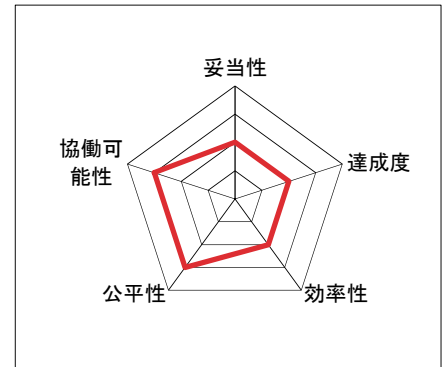
生涯学習は、高齢の方のためだけでなく、子どもたちにも推進していく必要がある。現在、学校週5日制が実施され、10年余りが経過し、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するため土曜日の英語学習講座を新設した。

（何をどのような状態に改善したのか）

引き続き、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するため土曜日の英語学習講座を開講した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	2
効率性	2
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）

・平成29年度までの10年間で応募講座数が603講座、うち363講座を募集し、220講座が開講した。
・平成29年度のサークル数は、12サークルが結成された。

【ウイークポイント】

（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）

講師から受講生への一方的な授業ではなく、相互に学ぶことができるような仕組みを作る必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

（改善の方法、今後の具体的展開など）

・サークル成立数は増加しており、目標数を超えている。平成30年度はチラシや広報、HP等でもサークル活動案内を行うことにより、成立数の増加を目指す。
・講座参加者数が平成27年度から徐々に増加している。HPやチラシ等、広報の方法を検討し、講座参加者数の増加を目指す。